

2015年度せいよう祭実施報告

—五橋キャンパス実行委員会の取り組み—

THE 2015 SENDAI SEIYO GAKUIN COLLEGE SCHOOL FESTIVAL REPORT

— FACILITATION FOR THE ITSUTSUBASHI CAMPUS FESTIVAL COMMITTEE —

小形 美樹¹ 村井 麻子²

Miki OGATA Asako MURAI

キーワード：学園祭、大学運営、委員会業務、委員会運営体制、学生指導

要 旨

大学専任教員の職務として大学運営に関わる各種委員会活動への参加があるが、その具体的内容についてはあまり知られていない。本稿では学園祭実行委員を経験した教員の取組事例を紹介しながら、学校行事の運営や行事を通じた学生指導のあり方について考察していく。

1. はじめに

大学（短期大学教員も含む）の専任教員は、一般的に大学運営に係わるさまざまな委員会に参加することになる。昨今は新任の大学教員向けに大学教員の職務について解説する書籍も多く発刊されているが、委員会活動の詳細や具体的な業務の進め方などについては、大学によって違い、新任教員や他大学からの転任教員、あるいは、サラリーマンから転身した教員などは、入職先で苦労するとも聞く。また、専門職である大学教員は大学間を流動することが多いため、上司から部下へ、あるいは先輩から後輩に業務を引き継ぐという概念が乏しいように見受けられる。しかしながら、担

当教員が交替するたびに何事も一からやり直しというのでは非効率であり、大学が存在し続けている以上、委員会業務においても一定の質が保証されなければならない。

近田（2010）は『大学教員準備講座』の中で下記のように述べている。

学内の委員会業務において重要なことは、知識や知恵およびノウハウの継承、共有、蓄積です。委員会のメンバーは数年おきに交替するのが一般的なので、経験から得た貴重な教訓を継承しにくいという課題があります。委員会の始動が遅いと、処理すべき案件が先送りされて、

1 仙台青葉学院短期大学 ビジネスキャリア学科 2 仙台青葉学院短期大学 看護学科
受理日：2016年2月1日

結果的に仕事量が増大してしまいます。大学教育の長期的な発展には、運営ノウハウの世代間継承は不可欠です。¹⁾

本学でも委員会のメンバーは原則として2年が任期となっており、また、教員の転出転入にともない1年で交替することも多く、「運営ノウハウの世代間継承」がなされているとは言いがたい。それは、委員会の下に組織される学校行事に係わる実行委員会等でも同様である。そのため、現場で学生と直接係わる担当者の負担はどうしても重くなりがちで、状況によっては、学科間や教職員間で不平や不満が生じたり、学生からクレームがついたりすることもある。

そこで、本稿では「2015年度せいよう祭五橋キャンパス実行委員」として看護学科教員の村井麻子とビジネスキャリア学科教員の小形美樹が協力して行った取組について報告し、大学教員が委員会活動や学校行事の運営のあり方、そして、学校行事を通じた学生指導の方法について考察する際の一助としたい。

2. せいよう祭実行委員会の組織化

本学の学園祭である「せいよう祭」は開学3年目の2011年度から実施され、2015年度に5回目を迎えるに至った。新設時は看護学科とビジネスキャリア学科の2学科であった本学は2013年度にリハビリテーション学科とこども学科、2014年度に歯科衛生学科、そして、2015年度に栄養学科を開設するに至り6学科を有する総合短期大学となっている。そして、2015年度「せいよう祭」は五橋・長町・中央の3キャンパスで11月8日(土)に同時開催をする運びとなった。

一般に大学の学園祭は学生の自治によって開催されるものであり、通常は大学事務局の学生部等や教員組織である学生委員会等が実施日や予算に関する取り決めを行ったら、その後の運営は学生に任せることが多いようである。しかしながら、本学においては今のところ教員主導となっている。この理由として、本学は歴史が浅い上、短期大学

のため修業年数が4年制大学に比べて短く、先輩から後輩へと学園祭運営のノウハウが継承されていないなどが挙げられる。また、背景には先述したように、学生委員会やせいよう祭実行委員会の教員も短期間で交替してしまうため、学園祭運営を教員主導から学生の自治へと移行するための指導が行われていないという事情がある。さらに、学科によっては学外実習の時期と重なってしまい、学生が積極的に関われないという時期的な問題もある。

2015年度は2年の任期満了にともなう委員の変更があり、新任教員の入職も多かったため、全学学生委員会において、せいよう祭実行委員会の立ち上げについて話し合いがもたれたのは7月1日の委員会となった。そのため、五橋キャンパスにおいては、看護学科やこども学科の一部学生が病院や保育園での実習中、さらには10回授業の科目については期末試験が実施されたり、また定期試験前のレポート提出などがあったりして、学生も教員も多忙を極め、第1回せいよう祭実行委員会の日程調整が非常に困難な状況となっていた。

しかし、7月末に夏休みに入ってしまうと3学科の学生を一堂に集めることはできなくなる。そこで、放課後の遅い時間の開始となってしまったが、第1回の委員会を7月21日(火)の18:00から実施し、教員と学生の顔合わせおよび担当決めを行った。幸いなことに五橋キャンパスにおいては昨年度の実行委員経験者や勤続年数が比較的長い教員が全学学生委員もしくは学科の学生委員であった。

そこで、昨年度担当者である看護学科教員の村井麻子と、本学入職前には事務所経営をしており経理処理等の経験があるビジネスキャリア学科の小形美樹が、せいよう祭の全体スケジュールを把握して教員や学生間の調整を行う「執行部」、企画から運営までの調整や手続に手間のかかる「模擬店係」、五橋キャンパスでの学園祭予算を適切に執行し会計処理をしなければならない「会計係」を担当することとした。なお、五橋キャンパスせいよう祭実行委員会の構成は表1のとおりであっ

た。看護学科の3年生とこども学科の2年生はせいよう祭当日まで病院実習や保育実習があるため、また、ゼミ単位での参加が恒例となっているビジネスキャリア学科1年生は後期の所属ゼミが確定していないため、夏休み前からの活動に加えるこ

とができず、系のメンバー構成が特定の学年のみとならざるを得なかった。

表1 2015年度五橋キャンパスせいよう祭実行委員

係	教員		学生	
			学科・学年	人数(名)
執行部	N	2(村井外1)	N1	3
	BC	1(小形)	N2	7
	K	1*(他係兼務)	BC2	5
			K1	2
計	4	計	17	
本部(せいよう祭当日事務局)	N	1	N1	3
			N2	2
			N3	4
			BC2	4
			K1	2
	K2	1		
計	1	計	16	
宣伝	BC	1	N1	2
			N2	2
			BC2	2
			K1	2
計	1	計	8	
模擬店	N	1(村井)	N1	6
			N2	3
	BC	1(小形)	BC2	3
			K1	2
計	2	計	14	
ステージ	N	1	N1	6
			N2	6
	K	1*	BC2	5
			K1	6
計	2	計	23	
会場設営	N	1	N1	3
			N2	6
	K	1*	BC2	2
			K1	3
計	2	計	14	
会計	N	1(村井)	N2	2
			BC2	2
	BC	1(小形)	K1	2
			計	2

N：看護学科、BC：ビジネスキャリア学科、K：こども学科

*こども学科実行委員教員は1名で執行部・ステージ・会場設営の3係を兼務

3. せいよう祭全体スケジュール

学園祭を実施するに当たっては、区役所や保健所に遅くとも開催日1週間前までに届出をするなど期限を見据えた準備が必要となる。そこで、過去の担当者が作成したスケジュール表を2015年度版に作成し直し、いつまでに、どの係が、何を、どのようにしておかなければならないかを大まか

に入力し、全体の流れがわかるようにした(表2)。このスケジュール表他、せいよう祭に関わるデータについては、学内のイントラネット上の教員共有フォルダーの「学生委員会」の「せいよう祭」の2015年度のフォルダーに投稿し、学内教員が見ることができるようにした。また、スケジュール表や模擬店エントリーシートの原本は、学生がダ

表2 せいよう祭五橋キャンパス全体スケジュール

【五橋キャンパス全体スケジュール】

月日	曜	学年暦	執行部	会計	宣伝	模擬店	ステージ	会場設営
7月24日	金		第1回実行委員会					
7月30日	木	定期試験(こども)	第2回実行委員会					
7月31日	金	定期試験(こども)						
8月3日	月	定期試験(こども・看護)						
8月4日	火	定期試験(こども・看護)						
8月5日	水	定期試験(看護・BC)						
8月6日	木	定期試験(看護・BC)						
8月7日	金	定期試験(看護・BC)					第1回会議	
8月8日	土	夏期休業開始(こども)						
8月10日	月	定期試験(BC)						
8月13日	木	夏期休業開始(BC)						
8月17日	月	集中講義(BC)						
8月18日	火	集中講義(BC)					第2回会議	
8月19日	水	集中講義(BC)						
8月24日	月	集中講義(BC) 試験結果発表(こども)						
8月25日	火	集中講義(BC)						
8月26日	水	集中講義(BC)						
9月2日	水		第1回本部会議					
9月7日	月					エントリーシート収集		
9月8日	火					模擬店調整		
9月9日	水					模擬店仮決定 →執行部に連絡	ステージ発表仮決定 →執行部に連絡	
9月10日	木			予算の配分				
9月14日	月		第3回実行委員会 (執行部+係のリーダー) 模擬店・ステージ等決定					場所決定 →執行部と調整 平面図(レイアウト) 作成
9月15日	火			予算配分確定 各ゼミ等 予算計画書の収集	デザイナーと打合せ			
9月18日	金							
9月21日	月	敬老の日						
9月22日	火	国民の休日						
9月23日	水	秋分の日						
9月24日	木	夏期休業終了(BC・こども)			ポスター案受取り			
9月25日	金	オリエンテーション(BC・こども)						
9月30日	水				ポスター等デザイン 決定			レンタル品 取りまとめ
10月2日	金				印刷会社発注	検便人数確定		レンタル品見積
10月5日	月					模擬店調理部門へ 届出書類作成依頼		
10月7日	水				ポスター・パンフ納品			
10月12日	月	体育の日				検便依頼		
10月16日	金		法人本部・学長へ挨拶 学生実行委員長が ポスターとパンフレットを 持参し、 学園祭について案内					
10月18日	日	保護者会(BC)						
10月19日	月			仮申請書の提出				レンタル品発注
10月22日	木			担当教員に仮払金配布	OHバンドス出演 (学生実行委員長、 BC男子学生1名、 歯科女子学生2名)	検便回収		
10月23日	金			学生・担当教員に 会計処理指導 (収支報告書の作成指示)		検便検査会社に提出		
10月24日	土	オープン・キャンパス			OCでパンフ配布			
10月25日	日	保護者会(看護)						
10月27日	火		検便検査結果到着					
10月29日	木		若林区役所(保健所)へ 祭事等開催届(村井先生) ①学祭願(学長印) ②平面図 ③検便検査実施証明書 ④販売食品名					
10月30日	金		のぼり設置 (事務局南さん・ BC吉田先生・BC学生10名)		看板印刷			
11月3日	火	文化の日						
11月4日	水		看板設置 (事務局南さん・ BC吉田先生・BC男子8名)			模擬店無料券作成 (小形)		
11月6日	金	PM短大祭準備	近隣マンションへ挨拶 (管理人さんに学生が チラシ・無料券持参)				リハーサル	会場設営 ①野外テント ②ゴミ箱
11月7日	土	短大祭当日						
11月30日	月		学園祭反省会					
12月1日	火			収支報告書の提出				

ウンロードできるよう、大学のホームページのネット版ティーチングポートフォリオにアップし、全体像を把握したり必要書類をPCで作成したりできるようにした。そして、各系の担当教員が実行委員の学生に各自の役割を期限厳守で果たすよう指導することにより、何とか、せいよう祭を実施することができた。

4. 模擬店の運営

4-1 予算管理と運営上のルール

せいよう祭で、学生が一番積極的に参加し、また楽しみにしているものは模擬店の運営である。模擬店は保健所指定のルールを守り校友会費の予算の範囲内で運営しなければならない。また、それにとまなう細かい手続きとして役所への届出や学園への収支報告などがある。さらに、火を取り扱うなどリスクを伴うことが多々ある。学生にはこれらの注意事項を順守し、主体的に取り組んでもらいたいところであるが、現在のところ、教職員の支援が必要である。しかも、せいよう祭実行委員会担当の教員だけでなく、全学科の教職員の協力を得なければ安全を保障することは困難な状況にある。

大学祭での模擬店には、①食品を調理して販売する店舗、②既製の食品を準備して販売する店舗、③食品以外の物品を販売する店舗、④イベント系の店舗がある。

五橋キャンパス実行委員会では、例年、食品を調理して販売する店舗にのみ4万円～5万円の予算を分配していた。しかし、平成27年度は、交友会費を全学生から徴収している以上、全模擬店に公平に分配すべきと考え、食品を調理して販売する店舗には4万円、既成の食品を準備して販売する店舗及びイベント系店舗には2万円を分配した。また、模擬店実施に必要な大型レンタル物品、手指衛生材料と簡易消火器などの全模擬店で衛生管理や火災予防などのルール順守を徹底する必要があるものについては、執行部及び模擬店担当教員の村井・小形が準備した。

このことにより、各模擬店は予算内で必要な物

品を購入することができ、せいよう祭全体も予算内で運営することができた。しかし、学生からは、「つり銭を準備することを忘れていて、立て替えた」「収支報告の際、つり銭を入れずに計算をして合わなかった」「予算を全て使い切ることができず多かった」「予算が少なかった」という意見や感想が寄せられた。また、実行委員以外の教員が予算管理方法について理解しておらず、困惑した学生から「学生が自由に予算を使用できなかった、学生が分からない支出がある」という相談もあった。

また、「模擬店」の定義が曖昧だったことで、学生および教員間でずれが生じたことが度々あった。例えば、仙台市のホームページには「模擬店とは、行事や催事の際に臨時的にテントなどの仮設店舗で営業をするものであるが、特に食品を取り扱う模擬店については保健所への届けが必要となる²⁾」とあり、飲食店舗に限ったものではない。しかし、本学では例年、予算の分配を受けて調理する飲食店舗のみが模擬店と認識させていたようで、その他の店舗の位置づけが曖昧であった。そのため、さまざまな店舗の運営に影響があった。

まず、既製品のお菓子などを提供していたブースなどは、模擬店として位置づけていなかったことから、どこで、何を、どのように提供してきたか記録が残っていなかった。保健所の規定によれば「既製の食品を提供する店舗は、その食品の材料を提示する義務がある」のだが、周知徹底できていなかったのである。

また、五橋キャンパス内で各店舗合同のミーティングを開催する際、LINEで開催通知を送ったが、調理する模擬店以外の店舗がLINEグループに参加しておらず、情報伝達が遅れるということがあった。

以上の2点については、模擬店への予算分配の際、改めて「模擬店」の位置づけの説明、登録内容の確認、模擬店を運営する上での責任と義務について周知徹底するとともに、全模擬店と連絡ができるようにLINEへの参加を促すことで対応した。それにより、学生が模擬店のリーダーとし

での責任と義務を再認識し、委員以外の学生にも指示をし、リーダーとしての役割を果たすことができた。また、連絡調整がスムーズになり執行部と模擬店の連携も図ることができた。

しかしながら、事前申告をせずに、来場者から料金徴収を行ったイベント系模擬店があった。売上が発生する予定の店舗には事前申告をするように指導していたのだが、この店舗では飲食店ではないので申告義務は不要だと思っていたようである。

4-2 衛生管理と事故防止

模擬店を運営する上で特に配慮しなければならないのは、衛生管理と事故防止である。

衛生管理では、飲食物を取り扱う上での食中毒と食物アレルギー対策が必要となる。模擬店を運営する際には、保健所に申請し許可を得ることが必要であることは先に述べた。そのため、食品を調理する人員が検便検査を実施して名簿を届け出る。そして、調理をする場合には、手指消毒及びグローブ・マスク・エプロン・三角巾等の着用を徹底し、既製の食品を販売及び配布する場合には、原材料名が分かるよう表示するなど、保健所からの運営上の注意事項を順守しなければならない。しかし、例年、学生及び委員以外の教員へ周知が徹底せず、身だしなみが整っていなかったり、届出者以外の学生や教員が調理を手伝ったり、既製品のお菓子を申告なく配布したりするなど不十分な点があった。せいよう祭はこども学科や看護学科が実習でお世話になっている保育所や地域住民との交流の場でもあり、子どもがお菓子によって食物アレルギーを起こすリスクも高い。

したがって、2015年度は、食品調理担当の教員と学生全員の検便検査の実施と、調理時の身だしなみの徹底、調理する場所及び冷凍・冷蔵庫の確保を徹底した。さらに、保健所から提示されている模擬店販売禁止の食品を提供しないよう周知徹底を図った。

食物アレルギー対策としては、食品を調理する模擬店は、調理食材の問い合わせにすぐに回答で

きるようにすること、既製品を扱う模擬店は、袋に記載してある材料名を印刷して提示することを義務付けた。

ところが、委員以外の教員に依頼した注意事項の伝達が学生まで届かず、前日及び当日に、村井・小形で巡回し指導したブースもあった。また、模擬店登録及び保健所の申請終了後の最終確認の段階で、販売食品の内容を生ものに変更していたり、既製品の販売に生ケーキを追加品目として組み込んだりしている模擬店が見つかり、許可されている食品を販売するよう指導した事例があった。いずれも教員が関わっており、せいよう祭担当以外の教員に対して衛生に関する注意事項を十分に伝達できていなかったことを反省している。以上のように教員と学生間の連絡がうまくいかなかった例はあったものの、学生グループリーダーがほかのメンバーに指示を出し、全ての模擬店が衛生環境を整えて実施することができ、食中毒及び食物アレルギーの事故は発生しなかった。

なお、本学と同日に開催された他県の学園祭ではセレウス菌食中毒が発生し、来場者35人が感染した事例が報じられている。この大学では許可を取得せずに営業を行っており、保健所長から無許可営業に対する警告書が交付されたという。(食と健康の総合サイト)³⁾

このように、食中毒事件などを起こせば、社会的な問題として取り上げられ、本学の教育機関としての信用にも関わってくるので、今後、模擬店の係となった教員は注意されたい。

次に、事故防止であるが、火の取り扱いについて特に注意を促した。2014年度せいよう祭では、ホース未接続側のガスの元栓が開栓されたままガスコンロを使ったり、穴を開けずにガスボンベ缶を破棄したりといった事例が報告されている。よって、2015年度は、火を取り扱う飲食模擬店に簡易消火器スプレーを配布した。また、各学科教員に巡回協力を依頼し、常に教員が指導できるよう体制を整えた。また、学生も前年度の事例を意識して注意事項を順守した行動をとり、火事及び物品の取り扱いについても事故は発生しなかった。

5. 運営体制および業務処理上の問題点と解決策

2015年度せいよう祭の教員実行委員として「執行部」「模擬店」「会計」の係を担当をし、これまでの五橋キャンパスの学生委員やせいよう祭実行委員の教職員のご苦勞はいかばかりであったかと察したが、同時に、先述した「運営ノウハウの継承」がシステム化して行われていないことに気づいた。以下、問題点を列挙し、2015年度に試みた改善策の紹介と次年度以降の対応策の提案をしていく。

5-1 記録の作成と整備

本来、業務であっても何かの会の活動であっても、後任者に対しては前任者が時間をとって引き継ぎを行うか、その時間が取れない場合、マニュアルを残していく。しかし、そのような体制が整っていない場合、後任者は過年度の記録を頼りに職務内容を把握していくしかない。ところが、学生委員会の「せいよう祭」の引継書類を確認したところ、年度によって、紙の書類をバインダーファイルに綴っていたり、イントラネットの教員用フォルダーに電子データを保存していたり、あるいはUSBメモリスティックに保存したままになっていたりとまちまちであった。さらに、本当に必要なデータが紛失している一方、不必要なデータが保存してあるなど、かなりの不備が目立った。前任者がデータを保存していたにもかかわらず、後任者がそのデータの所在がわからず、新たに作り直したと思われる書類も多数見つかった。おそらくデータが探せず新規作成したほうが早いと判断したのであろう。

組織においてこのように情報の共有や適切な流通が行われないのは、文書管理システムが構築されていないことが原因である。本来ならば、組織全体としてこの問題に取り組み解決していくことが理想であるが、まずは、次年度以降の担当者が過去のフォルダーを見れば、これまでよりはスムーズに業務をこなせるよう、せいよう祭関連の書類の電子化保存を行った。まずは、紙ベースで保存

してあった過年度の書類はPDF化して学生委員会の「せいよう祭」の該当年度のフォルダーに投稿した。また、先述したとおり、2015年度の作成書類についても、作成の都度投稿し、どのフォルダーに書類を投稿したかを関係する教員に電子メールで知らせ、また、学生が使用する書類については、ティーチングポートフォリオにアップしてダウンロードできるようにした。

しかしながら、電子データの活用が不得手だという教職員や学生も存在する。また、ティーチングポートフォリオの活用状況は学科や担当教員によってバラツキがあるため、入学してから一度も利用したことがない学生がおり、新年度のオリエンテーションで説明を受けているにも関わらず、アクセスの仕方がわからないから教えてほしいなどの要望があった。

5-2 学生への説明

「記録の不備」により前年度のデータが活用しにくい状態にあったため、まず、2014年度を中心メンバーであった看護学科の学生せいよう祭実行委員に、2014年度資料で保管しているものがあれば全て提出させて参考にした。また、2015年度の学生実行委員がどのように活動すればよいか分からず不安な状況であったため、教員から2014年度看護学科せいよう祭執行部担当学生に2015年度の実行委員会への出席を依頼し質問に答えてもらうなどの対応を取った。この対応により、学生間では役割や活動内容が概ね把握できたようである。

しかしながら、教員側から学生への説明が不足するという事態が起こった。例えば「模擬店」を出店したいゼミやグループはエントリーシートを提出するのだが、ほとんどが必要事項を適切に記入できなかった。具体的には、飲食物を提供したいゼミやグループは、必要なレンタル品や予定販売数などを書き込むのだが、わからないというのである。教員側としては、代々同じ模擬店を出店しているゼミやグループであれば、昨年度の資料を見れば済むと考えがちであるが、中心メンバーだった上級生が卒業し、担当教員も退職していた

りすると、手許に資料が残っていない。同じ学科の他の教員に聞いても解決せず、実行委員の教員に確認するしかないわけである。実行委員の教員は、記録が残っていないために即座に答えられない質問については、あちこちに問い合わせをしてから回答しなければならず、かなりの時間と労力を割くことになった。学生の教育上は時間がかかっても、自分で解決策を見つけさせ、このような状況にも対応できる力をつけてやるべきだとはわかっていたが、如何せん、せいよう祭当日までの準備期間が短いことがここでも影響し、教員が動かざるを得なかったのが残念であった。

このような事態を招かないためには、最初にエントリーシートを配布する際に、各模擬店の代表学生に昨年度の実績を記した資料を提示すべきであった。2015年度は初めの回収では不備が目立ったので、差し戻しをし、昨年度以前の例を各ゼミに個別に知らせるなどして再提出をさせることで対応したが、教員も学生も余計な時間と労力を費やすことになった。

なお、この処理を通じて、過年度のレンタル品の一覧表や請求書等の控もあちこちに分散して保存されていたことが発覚し、どの部署のどの教職員が何をするかなどの職務分掌についても曖昧であることがわかった。この点については、次年度以降のせいよう祭実行委員会を立ち上げる際に改めて取り決めるを行うことが望ましいと思われる。

5-3 「せいよう祭実行委員会」立ち上げ

2015年度は7月になってから「せいよう祭実行委員会」が組織されたため、せいよう祭当日までの準備期間が短く、また、すぐに夏休みに入ってしまったため、学生を一堂に集めて委員会を開く時間が限られ、学生主体で実施するには時間が足らず、教員が外部との打ち合わせや役所への届出などを行わざるを得なかった。

複数の学科からそれぞれ担当教員や学生を選び、せいよう祭実施まで計画的に準備を進めていくには、全学科の学生が登校している5月には各キャンパスのせいよう祭実行委員会を立ち上げた上で

全学の執行部の委員会を開催できるよう、4月の全学学生委員会で執行部立ち上げの取り決めをしておく必要がある。このように年度初めに実行委員会を組織化して役割分担を決め、委員会の日程も決定しておけば、学生が主体的にアイデアを出し活動体制を整えて行動しやすくなるであろう。実習、定期試験、アルバイト、就職試験など現在の学生は多忙である。学生の中にはアルバイトで学費を賄っている者もおり急な予定変更に対応したくてもできないこともある。学生の事情も斟酌したうえで、自発的に活動をさせるには、早めの対応が肝心である。そうすれば、5-1と5-2で指摘した記録の不備や学生への説明不足も改善し、学生主体のせいよう祭へと変わっていくはずである。

5-4 SNS の活用

「せいよう祭実行委員会」の立ち上げが遅れたため、学生には担当ごとに即座に連絡が取れるよう SNS (Social Networking Service) を活用させることとし、学生の多くがスマートフォンで使用しているコミュニケーションアプリケーションである LINE でグループを組ませた。

しかしながら、教員と学生が SNS でつながることについては注意が必要である。例えば、吉武(2015) はゼミ・研究室を運営する際の学生とのコミュニケーションの留意点について次のように述べている。

学生との距離感に注意を払いましょう。学生との関係性において、教員は、学生との間に一定の距離感を保って関わる必要があります。…(中略)…学生と教員との SNS (Social Networking Service) でのコミュニケーションは、この距離を保つことをしばしば難しくし、私的な関係を展開させてトラブルを発生させてしまう行為です。研究室の学生と SNS で交流する関係をもつことは避けるべきで、決してお勧めできることではありません。授業での受講学生との双方向のコミュニケーションを活発にするために SNS を利用する場合には、プラ

イバシー保護に最新の注意を払い、授業が終了する際には、SNS のつながりも閉じることとしましょう。⁴⁾

我々も LINE で学生とやり取りをすることについて抵抗はあったが、それでも活用せざるを得なかった。最近の学生は携帯電話のメール機能はほとんど使用せず、学校から連絡を入れても見ない傾向がある。よって、せいよう祭当日までの期間も短かったことから、LINE を使用できる教員は自分の担当係のグループに参加し指示や連絡をしなければならなかった。また、2014年度の実行委員の学生から、SNS で実行委員同士が非難し合ったという例も聞いていたので、学生間のやり取りを監視する必要性もあった。

例年、準備運営の時点で学生間にトラブルが生じやすいのも、ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）が上手くいかないという点にあったが、2015年度は、LINE の取り扱いのルールを教員側から提示して使用させたことにより、必要な情報を

視覚的に確認することができ、また、質問や回答をリアルタイムでやり取りすることができた。この結果、学生たちは期限を守って必要な準備運営をすることができ、学生間のコミュニケーションに関するトラブルも発生しなかった。

さらに、教員が参加する以上、単なる連絡の手段とするだけではなく、LINE 上のやり取りも教育の対象とした。例えば、村井は教員から学生に連絡事項を伝えたときは必ず返事をするようにと指導を徹底した。連絡事項が、どの学科のどのゼミまで伝わっているかを把握する必要が意外に多かったからである。また、小形は言葉遣いに注意するよう促すなどした。これらの指導により、学生はほう・れん・そう（報告・連絡・相談）を自然に行うようになり、「承知しました」や「かしこまりました」など年長者に対する敬語も使うようになった。さらに、委員会に欠席となる場合は、詫びの言葉を添えて返信するなどの配慮もできるようになった（図1）。

なお、せいよう祭の一切の処理が終了した後は、

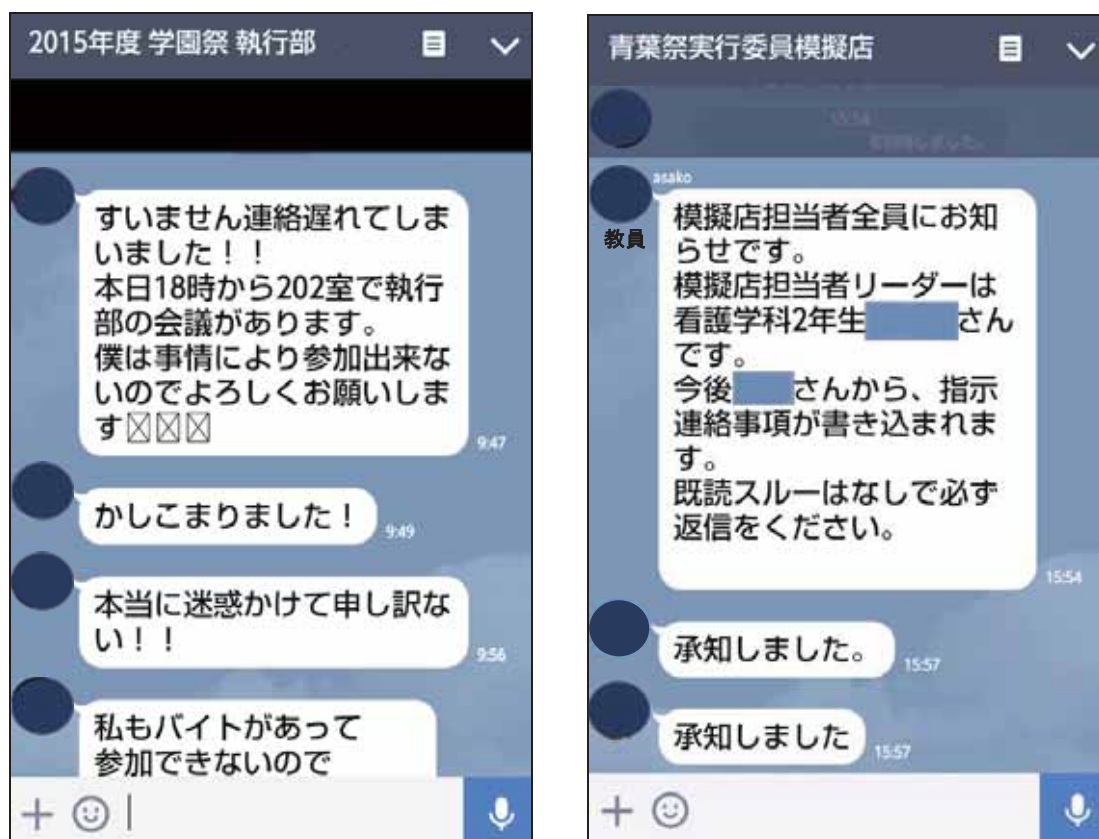


図1 「執行部」および「模擬店」のLINEグループのやり取り

学生たちに LINE グループからの退会を促した。

5-5 教員への周知徹底

2015年度は、校友会費予算を分配する際に担当教員にも出席してもらい、予算の取り扱いや衛生管理について伝達する機会を設けたが、全体的に教員に対して理解を促すには不足があった。

今後、せいよう祭の運営にどの程度教員が関わるようになるかは不明であるが、金銭管理や衛生管理に不備があれば学校全体の評判も落とすことになるので、基本的なことについては、教員にも周知徹底し率先垂範してもらう必要がある。

6. せいよう祭実行委員活動による教育効果

これまで述べたとおり、運営体制等にさまざまな問題はあったものの、2015年度五橋キャンパスせいよう祭は何とか成功に終わることができた。そして、学生たちは「2015年度せいよう祭実行委員会」の活動を通してさまざまなことを経験し、身につけることができたようである。

11月30日（月）には、実行委員および模擬店代表者等の学生36名が出席し「2015年度せいよう祭振り返り会」を開催し、感想や反省などを発表した。学生たちからは、ほう・れん・そう（報告・連絡・相談）の大切さ、効率のよい仕事の仕方、会計書類の作成の際の注意点など、社会人として働いていくうえで必要とされるビジネス基礎能力の大切さを実感したという報告が多かった。以下、発表内容の一部を紹介する。

メンバーに当日の役割を伝えるのが遅くなってしまったため早いうちにシフトを組み当日の役割を周知しておく必要があったと思う。（本部）

ステージとなる教壇は高さが違うものがあるので、どの教壇をどこに配置するのか事前に決めておけば良かった。また、することがない学科に教室の掃除を行ってもらった。事前にすることがない場合の動きを決めておけば良かった。（ステージ）

冊子の配布分担を前日に決めてしまい、ビジネスキャリア学科・こども学科が別の仕事で分担の時間帯から抜けてしまった。他学科との話し合いが大事（宣伝）

ペン書きせずに報告書を提出したブースや、残金を一緒に提出しなかったブースがありました。ペン書きの指示は、理解しているという思い込みから確認をしていなかったと思います。残金を一緒に提出するという確認はせいよう祭終了後にもう一度行う必要があったと思いました。（全体会計）

今回問題に挙げた点は、疑問点や不明瞭な部分を事前に担当の先生方に確認することで解決できた問題であった。説明があるだろうというどこか受身な姿勢でいたので、もっと能動的に動くことが必要であったということに気付いた。（看護学科会計）

会計担当者はすみやかに報告書の作成をし、確認して、提出。遅れないようにする。（ビジネスキャリア学科模擬店）

7. おわりに

以上、本稿では、仙台青葉学院短期大学五橋キャンパスせいよう祭実行委員会の「執行部」「模擬店」「会計」係を担当した教員2名の取組の一部を紹介しつつ、実際に体験して気づいた課題と解決策等について述べた。今後、学校行事担当の委員会活動に参加する教職員の参考になれば幸いである。我々2名も担当教科の講義やその準備、実習指導、学外対応などの合間を縫っての実行委員会活動と学生指導であったため、次年度以降の教員が保管文書をみただけで理解し実施できるようなシステムを作り上げることはできなかった。しかしながら、早めの取組みやイントラネットやSNSの活用により、学生たちに主体的に取り組ませることは十分可能であるとの手ごたえも感じた。今後の実行委員の教員と学生の活躍により、せいよう祭の準備・実施がスムーズに行われ、ますます発展したものとなることを期待したい。

引用文献

- 1) 近田政博「7章 大学教育におけるチームワーク」夏目達也他『大学教員準備講座』玉川大学出版部, 2010年, p.103
- 2) 仙台市ホームページ「飲食店などの営業を始める前に」http://www.city.sendai.jp/business/d/kankyo_03_01_01.html 検索日2016年2月1日
- 3) 食と健康の総合サイト「食中毒速報ニュース」平成27年11月14日 <http://e840.net/> 検索日2016年1月25日
- 4) 吉武清實「第6章 ゼミ・研究室を運営する①基本編」羽田貴史編著『もっと知りたい大学教員の仕事』ナカニシヤ出版, 2015年, p.107

謝辞

2015年度五橋キャンパスせいよう祭の実施にあたっては、五橋キャンパス教職員や学生の皆様にご協力をいただきました。慣れないことで行き届かなかったことも多くありましたが、皆様のご指導とご鞭撻により、無事にせいよう祭を成功に導くことができました。改めてこの場を借りて感謝申し上げます。